

中学生を対象にした水産体験学習の促進による担い手の確保 (県単，地域振興推進事業)

北薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

甕島地域においては水産業が基幹産業となっていることから，次世代の水産業を担う若手漁業者を幅広く確保・育成していくためには，中長期的視点に立ち児童や生徒が将来の職業としての水産業に対する関心を醸成していくことが重要である。

しかしながら，甕島地域には高等学校が無く，中学卒業後ほとんどの生徒達は本土へ移住していくのが現状である。

そこで島内の中学生（一部小学生を含む）を対象に漁業体験学習等を実施し，実際の体験を通して早いうちから漁業就業に対する意欲を高めてもらうとともに，漁業に対する理解を深め，次世代の漁業担い手確保と若手漁業者の定住促進及び地域活性化を図った。

【普及の内容・特徴】

これまで多くの水産教室が県や市町村，若しくは漁協が主催して行われてきたが，当水産体験の特徴としてはもっぱら若手漁業者を主体に実施することである。

なお，今回の水産体験教室では5中学校で各1回行われ，延べ34名の漁協青年部員が中心となり，総計99名(中学生86名，小学生13名)を対象に実施した。

・内容

学校名	区分	期 日	内 容	参加人数
里中学校	栽培漁業体験	11月 9日	・クエ標識装着体験(クエ稚魚350尾にダートタグを装着)	1，2年生 26名
上甕中学校	漁業体験	11月10日	・定置網漁業体験（網持ち体験，荷揚げ，選別及び計量等の体験）	1，2年生 14名
鹿島中学校	漁業体験 水産流通・加工 体験	11月21日	・定置網漁業体験（網持ち体験，荷揚げ，選別及び計量等の体験）及び捌き方体験	全校生徒 9名 (小学生 13名)
海星中学校	地域漁業についての講話	12月 9日	・甕島の漁業について ・キビナゴ漁について ・カジキ漁について ・定置網漁業について	全校生徒 29名
海陽中学校	体験学習	12月17日	・ロープワーク体験(定置網漁業体験が天候不良により振替)	1年生 8名

【成果・活用】

これらの取組により，地域漁村の活力となっている若手漁業者と地域の小・中学校が連携して，子どもたちに対する地域水産業への理解増進，地産地消・魚食普及，郷土愛の醸成が図られた。

また，併せて，甕島地域の若手漁業者が次世代の水産業の中心を担うという自覚と地域リーダーの育成に寄与した。



里中学校(タグ装着)



上甕中(定置網体験)



上甕中(市場体験)



鹿島中(捌き方体験)



海星中(地域漁業の講話)



海陽中(ロープワーク体験)